

ひだごぼ真宗教化センターだより 2022年1月号

御誕生 58 立教開宗 800 真宗入道(北本願寺)

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2021(令和3)年12月24日 第18号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776 web http://hidagobo.jp takayama@higashihonganji.or.jp

「清見のお寺でこども会」が開催されました

—子ども会にあわせて帰敬式を執行—大人を含め5名が受式しました— 清見組・御坊センター青少年部会

■子ども会と帰敬式をあわせた事業展開

この事業は、これまで組を巡回して行われてきた「夏のつどい」が、高山別院に会場を固定することとなったため、その代わりとして発案されたものです。組を主体に子ども会が開催されることにより、各地域の子どもたちにお寺が遊び場として、あるいは学びの場や出あいの場として開かれていくことを願いとするもので、青少年部会が企画運営をサポートしながら実施されます。

さらに、この「出張!ごぼう子ども会」に取り組んでいく上での重要なポイントとして、単に子ども会を開催するだけではなく、親子いっしょに帰敬式を受けていただけるよう推進していくことがあります。真宗では古くから「家」を基盤とした、親から子へと受け継がれてきた念仏相続の流れがありますが、その「家」という基盤が揺らぐ昨今、念仏相続の流れもまた同じように揺らぎ、途絶えていくことが懸念されます。そして清見組では、帰敬式の受式が特別な法要時や親鸞教室が中心となるため、その対象が高齢なご門徒に限られ、若い世代に勧めていく機会がありませんでした。

そういった状況を踏まえ、子ども会と帰敬式をあわせてひとつの事業として展開することにより、若い世代へ帰敬式を勧めていく機会が作られ、また、子どもの受式を縁として、両親や祖父母といっしょに家庭の中で、帰敬式について話し合う場が持たれるのではないかと思います。子どもたちにとってお寺を開かれた場所にするということは、帰敬式で授かる法名に込められた願いを、仏の子として共に聞いていく場所とすることと同じでなければなりません。



■清見組青少年部会の課題

清見組の青少年部会の課題として、年々進む少子化や、ほとんどが兼業寺院であるなどの理由から、一ヶ寺が単独で子ども会を運営していく土台や体力が無いということがありました。私個人としても、一部のご門徒から子ども会の開催を強く望む声をいただくなど、その必要性に迫られながらも、「どれくらい子どもが参加してくれるのかな…」「一人で続けていけるのかな…」といった不安や、仕事と法務の両立による忙しさが先行し、なかなか重い腰を上げることが出来ずにいました。



しかし今回、青少年部会からのサポートと同時に、組内の住職、数少ない若手寺族にも声を掛け、快く協力を得ることができたことが励みとなり、一ヶ寺ではなく組を主体とする子ども会を形にすることが出来ました。

■第1回「清見のお寺でこども会」

記念すべき第1回の「清見のお寺でこども会」には、保育園児から小学6年生までの子どもたち約30名が参加し、帰敬式には5歳から62歳までの5名の方が受式くださいました。その中には、子、母、祖母の3世代で受式された家族もおられます。子ども会開始の前に帰敬式を執り行い、受式者以外の参加者にはその様子を見守っていただきました。子ども、保護者を問わず「今なにやってるの?」という表情をした方々も少なからずおられましたし、実際に剃刀の様子を見て、「これはどんな意味があるの?」と問いかけてくれる若いお母さんもおられました。その素朴な疑問のひとつひとつがとても大切であり、その疑問に答えていくのが、帰敬式を推進していく住職の仕事であると感じます。

「誓いの辞」は、12歳の女の子が、とても緊張した様子で読んでくれました。文章はこちらで用意したものでしたが、実際に発せられる言葉には、様々な思いが込められ、私も一緒に帰敬式を受けているような、感動的な誓いになったと思います。その後、参加者全員で「正信偈」をおつとめし、了徳寺住職の佐藤義晃氏から仏法僧の帰依三宝について、子どもたちの目線に立った優しいお話をいただきました。みんな真剣なお話に耳を傾けていました。子どもたちは私たちの呼びかけに応じて、みんな真剣に仏さまと向き合ってくれました。

さて、お話の後はあそびです。ここからは私たちが子どもたちと向き合う時間。様々なゲームを考え、時間をかけて備品を準備し、イメージトレーニングを重ね、1時間の間子どもたちを楽しませようと、全集中で臨みました。しかし蓋を開けてみれば、言うことを聞かず勝手気ままな行動をするヤンチャな男子、2人1組で側を離れない仲良し女子、歩くのもやっとな小さな子など、それぞれがそれぞれのやり方であそびます。気が付いたら、楽しませようという当初の気負いは打ち砕かれ、子どもたちのペースで怒涛のように時間が過ぎていきました。普段なら交わることの少ない年の離れた子どもたちが、バラバラでいっしょにあそぶ光景こそ、お寺で子ども会を行う醍醐味なのかもしれません。



子ども会の最後に、「みんなも仏さまのお名前もらおうね」と呼びかけると「はい!」と返事をしてくれ、とても嬉しく思いました。今後も清見に「子ども会+帰敬式」が定着していくよう、継続して取り組んでいきたいと考えています。

清見組 了因寺住職
センター青少年部会委員

渡邊 侑希



★センター・別院からのお知らせ★ ※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

岐阜別院報恩講へ団体参拝—教区内別院交流

12月10日(金)、岐阜別院報恩講への団体参拝が実施され、飛騨地域から36人の方にご参加いただきました。岐阜別院報恩講への団体参拝は教区の改編を機に始まり、昨年はコロナ感染の影響で中止となりましたが、今年は実施することが出来ました。当日は池田勇諦先生のお話もあり、皆さん喜んでおられました。

なお、11月の高山別院報恩講には、岐阜地区から25人の方にご参拝をいただきました。今後も相互の交流が継続されていくことが願われます。



年末おすす払いを実施 高山別院

12月21日(火)、高山別院の年末おすす払いが実施され、約30人の方にご参加いただきました。時節柄、参加者同士で「来年もよろしく!」という言葉の掛け合いが見られました。

多くの方々にお手伝いいただきました。ありがとうございました。



第40回 真宗公開講座 2月1日午後2時~

講題:真宗の生活 講師:孤野秀存師(大谷専修学院 院長)
主催:大谷専修学院同窓生(青草びとの会) 会費:500円

ご坊センター教化の三本柱の一つ青少年教化は、決して新しい取り組みではありません。2019年の別院本堂落成慶讃法要法話で、故三本昌之師（2021年1月14日ご逝去）が、100年以上前の青少年教化について触れられています。三本師の法話は、青少年に限らず真宗の教化とはいかなるものかを考える機会となるものであり、今号から2回にわたり、その抄録を「青少年教化の軌跡」として掲載いたします。

■十八里の道を孫の手をとりて来たり

明治8年にも別院の本堂は焼失し、その10年後には再建されますが、山門だけ工事が遅れ、大正3年になり、親鸞聖人の650回忌の御遠忌法要の時に落成法要も行われました。

この時、大谷光演御門首（法主）、彰如上人（別名：句仏上人）がお参りされています。俳句で有名な方で日本画もされておられた方ですが、有名なものには「もったいなや 祖師は紙子の 九十年」という句がございます。このご坊さまの650回忌にお参りされた時、俳句を詠んでおられます。

浮木にも 遇いてめでたし 帰る雁

もはや雁は帰ってしまっておりますけれども、大海原を飛んで帰っていくと疲れるだろう。その時偶然、流木があった。遇い難くして遇った。そこへとまって羽を休め鋭気を養って力をためて帰っていった。そういうような句でございます。ところがこれだけではわからん。実はこの句の前に前書きがあります。

世にはいともうれしきひともあるものかな、高山の法会に遇わんと十八里の道を孫の手を取りて来たり、世の無常を説きて 喜び勇み 帰りけると聞きて…

法要が終わって彰如上人がくつろいでおられた。そこで「実は今日、参詣の人の中にこういうおじいさんがいたんですよ」というふうに知らせてもらったのでしょうか。はるばる18里、72キロの道のりを、孫に手を引かれてではなく“孫の手を取りて”です。

おそらく10歳くらいの子でしょうか、あまり小さいと連れて来れませんから。勝手にですが、72キロと言っていると荘川が白川あたりかと思えます。嘉念坊上人が飛驒に最初に真宗の教えを伝えていただいた地域です。おそらくそこのご門徒のおじいさんが是非法要にお参りをしたいと思ひ、はるばるやって来られた。その時一人で来れば楽でしょうが孫の手を引いてきた。子どもですから、菓子買って来てとか駄賃ほしいとか、足が疲れたでおんぶしてくれとか、ぐずったり泣いたり大変だったと思う。それならもっと元気な息子と来るか一人で来ればいい。72キロですから片道2日、往復で4日はかかると思えます。

親鸞聖人のもとへ関東のお弟子たちが「往生極楽の道をといきかんがため、身命をかえりみず」はるばる京都までやって来られた。そういうご門徒さんがおられた。『歎異抄』第二章につづられております内容を彰如上人もお感じになられ、この歌を詠まれたのではないかと思います。

先ほど輪番が拝読した表白の中に、この本堂は

昭和38年に落成したとあります。宗祖御遠忌七百回忌とともにその落成法要が昭和42年に勤まりましたが、私も祖母に連れられてお参りに来たはずなんです。

ところが、別院の前のコサカ種苗さんのあたりで私ころんでしまい、タールがズボンにべたっとついてしまいました。ええとこのお坊ちゃん風に紺色の上下の服を着ておったんですが、ベタベタになってしまひまして、あの時のばあちゃんの顔は忘れられません。“何てことしてくれた”と本当に情けない顔をしていました。仕方がないので坂の下の倉長という店で新しいズボンを買ってもらいました。それでもうばあちゃん疲れ果ててしまい、近くの妹の家に行って休んで、結局落成法要にはお参りできなかった。そういう思い出があります。

■50年後に託す

はるばる18里の道を孫の手を引いてお参りに来る。何でや！

これはおそらく、私はお前を連れてくる。この50年後、700回御遠忌になりますがその時には私は死んでまっとう。だけれども、お前を今この法要に遇わせておけば、お前はまた50年後、自分の孫を連れてお参りしてくれるに違いない。あるいはこの650回忌にお参りすることによって、真宗の教えを聞いていく道を歩んでくれるのではないか、そういう願いがおそらくあって連れてこられたのではないかなと思います。（続）



『高山市民時報』ミニ法話『響』1月の寄稿者

- 白尾 匡氏（朝日高根組 長圓寺住職）
- 三島 多聞（高山別院輪番）
- 江馬 雅人氏（益田組 賢誓寺住職）
- 白尾 公信氏（高山2組 了心寺住職）
- 小原 正寛氏（高山1組 専念寺）

web ひだご坊でも「一口法話」配信中！

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

聖教学習会
〈育成部会〉

講師 マイケル コンウェイ 氏(大谷大学准教授)
テーマ 『安楽集』に学ぶ 一時機の自覚一

- 【第1回】 2022年2月 2日（水）〔日程〕13:30～16:00（共通）
- 【第2回】 2022年2月 14日（月）〔会場〕高山教務支所 〔会費〕500円
- 【第3回】 2022年2月 25日（金） ※詳しくは同封のチラシをご参照下さい。

ご寄付をいただきました

高山別院責任役員田中正躬様より、御坊会館ワイヤレスチューナー増設工事に際し、ご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。 寄付金 金308,000円

飛驒御坊真宗教化センター・高山別院 2022年1月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
1	土	0:00	別 修正会 法話：輪番	本堂
2	日	13:00	別 修正会 法話：小原 正憲氏（専念寺住職）	本堂
3	月	13:00	別 修正会 法話：窪田 純氏（圓徳寺住職）	本堂
4	火			
5	水		教務所冬期休暇～5日まで	
6	木	15:00	教 参事会・常任委員会 別 鏡開き	高山支所
7	金			
8	土			
9	日			
10	月			
11	火	13:00	別 大谷婦人会新年互例会 法話：輪番	御坊会館
12	水	19:00	組 高山二組親鸞教室④	御坊会館
13	木	7:00 14:00	別 前住上人ご命日 教 解放推進協議会常任委員会	本堂 岐阜高山教務所
14	金	14:00	教 宗務改革に関する内局巡回 組 朝日高根組親鸞教室④	岐阜高山教務所（WEB） 西教寺
15	土	7:00	別 半日華	
16	日			
17	月			
18	火			

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
19	水	14:00	七 育成部会	センター室
20	木			
21	金			
22	土			
23	日			
24	月			
25	火	13:30	七 企画会議・帰敬式法座企画スタッフ会	研修室
26	水	19:00	組 高山2組親鸞教室⑤	御坊会館
27	木	13:00 13:30 19:00	別 親鸞聖人お逮夜 教 解放推進協議会輪読会 教 教化研究所	本堂 高山支所 研修室
28	金	13:00 14:00	別 親鸞聖人御命日 法話：細川 宗徳氏（蓮乗寺住職） 教 慶讃総務会	本堂 WEB
29	土			
30	日			
31	月			

2022年2月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1	火	14:00	七 真宗公開講座	8	火	13:00	教 真宗同朋会支部長会
2	水	13:30	教 聖教学習会①	10	木	13:30	教 法要教化部会 WEB
4	金		組 清見組後期教習（～6日）	11	金		組 高山二組後期教習（～13日）
8	火	10:00	連 連区同推協代表者会議 WEB	14	月	13:30	七 聖教学習会②